

平成19年度決算の報告

みんな
で
学ぼう

町のお金の使い道



彦左衛門さん



さくらさん

今年も町の台所事情をお知らせする時節となりました。平成19年度の1年間で町が使ったお金の中身をご覧いただき、今後の町政の動きを知っていただきたいと思います。

今年も財政事情に詳しい町のご意見番「彦左衛門」さん（文中では彦左さん）の登場です。質問者は財政状況を勉強している町民代表の「さくら」さん（町の財政状況をいろいろと知りたい町民代表）、進行役は広報担当「R」が努めさせていただきます。

一般会計

R…さて、19年度の決算の特徴を教えてください。

彦左さん…ん、一般会計の決算は、前年度と比べると歳入も歳出も減ったわけじゃが、知ってのとおり福祉や、防災面など待ったなしでやらにやらなんの仕事があったわけじゃ!!

さくらさん…どうして歳入も歳出も減ったんですか？

彦左さん…それはな、前年には一般廃棄物最終処分場建設、幸田中体育館改築、中央公民館改築など大型プロジェクト事業がたくさんあったため、予算規模も大きくなっていたからじゃ。

R…それでは19年度はどんな施設整備が行われたのですか？

彦左さん…それじゃあ、19年度に取り組んだ大きな事業について話をするかの。

まず、農林水産業費では、深溝運動公園の整備や各集落で農道などの整備が進められておるところじゃよ。次に土木費。道路新設改良事業では、野場横落線、芦谷荻1号線、坂崎野場1号線大正交差点改良等の道路整備工事を行ったのじゃ。

教育費では、幸田中、中央小、深溝小の耐震補強や幸田小、深溝

小の大規模改造工事などを行い、また、大日蔭グラウンドの用地購入により、借地の解消にも努めたのじゃ。

これらをひっくるめて普通建設事業と言いつ、総額にすると約23億円、歳出予算全体の18・4割と高い割合となるのじゃよ。

費目別のグラフを見てみるとそのへんがよう分かるのじゃ。

さくらさん…費目別のグラフを見てみると普通建設事業以外ほとんど増えていきますね。

彦左さん…ウーン、ちよつと違うな。普通建設事業が大きく減ったというのが正しいな。確かに扶助費や物件費の歳出は増えたが、その他は前年とあまり変わっていないじゃ。



さくらさん…じゃあ、その伸びた扶助費や物件費ってなんですか？彦左さん…そうじゃな、扶助費とは社会福祉や老人福祉、児童福祉等の医療助成や児童手当のことじゃよ。今回伸びたのは、児童手当が3歳未満児で拡充されたことと、乳幼児等医療の無料化が小学校3年生まで拡大されたためじゃ。

次は物件費じゃな。これは、役場など公共施設で働くパートさんの賃金を始め事務用品などの消耗品に使われたもので、一番大きいのはなんといっても委託料じゃな。公共施設を維持していくのに必要な施設の管理や保守点検を専門の業者に委託した経費で、町民会館・図書館・町民プール・高齢者生きがいセンター及びふれあいプラザの5つの施設は指定管理者制度によって管理運営を委託しているのじゃ。今回伸びたのは、後期高齢者医療等新しい制度ができたため、電算システムの開発費が増えたのじゃ。

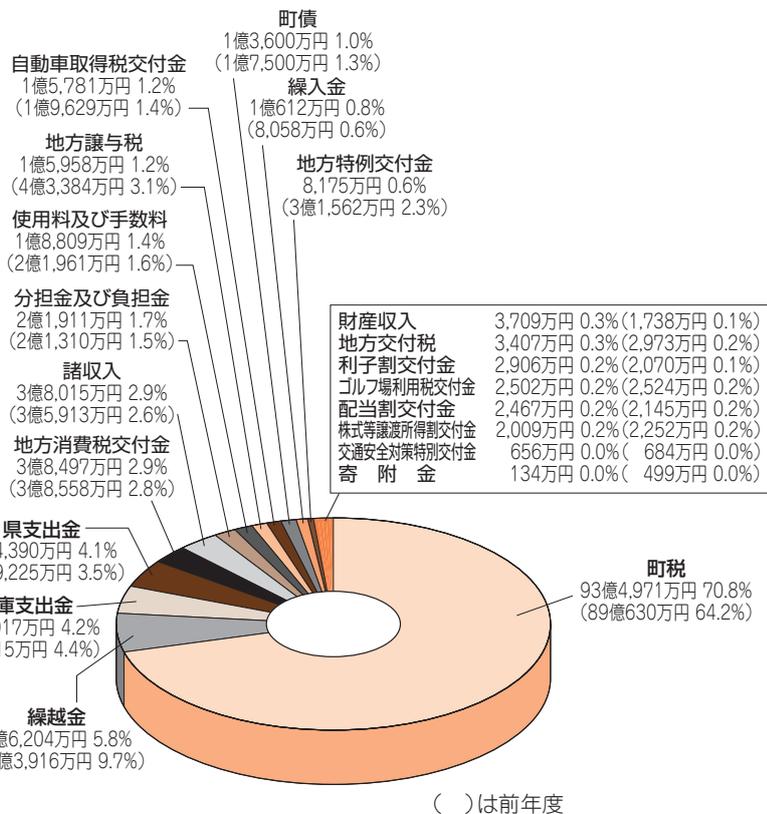
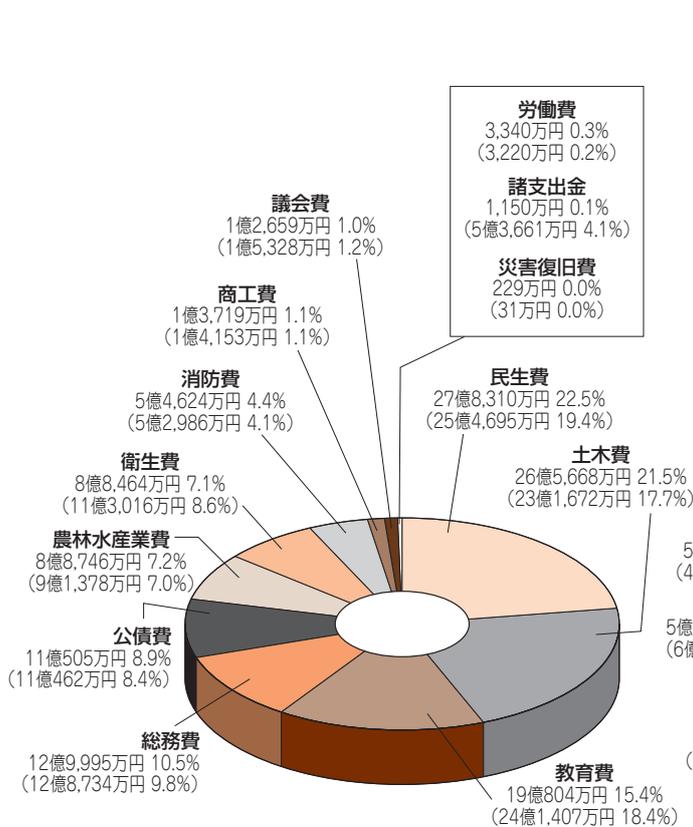
さくらさん…新しい制度ができるとお金もたくさんかかるんですね。

R…それでは、そのほかの主な費目もどんなものか教えてください。

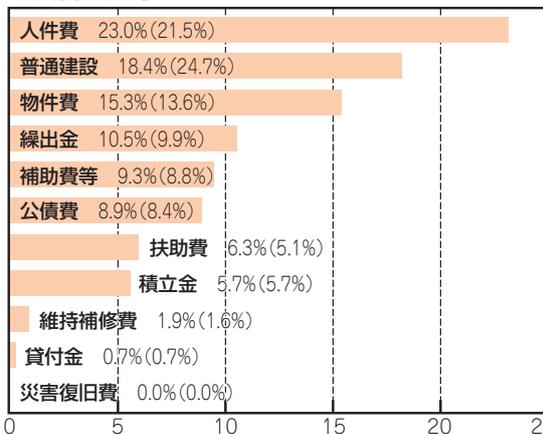
彦左さん…それじゃあ、補助費等から説明しようかの。これは国や

歳出 123億8,213万円
(前年度：131億743万円)

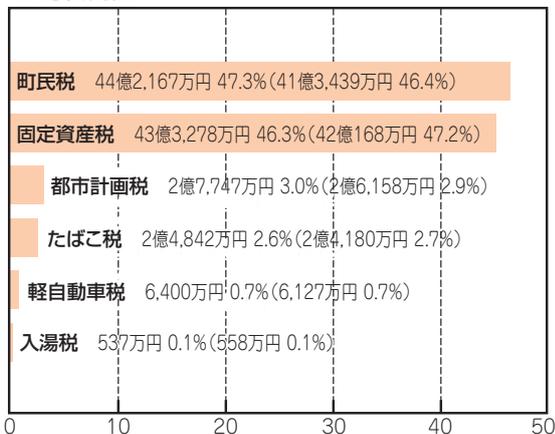
歳入 132億730万円
(前年度：138億6,946万円)



○費目別区分



○町税内訳



彦左さん..そのとおりじゃ。ね。これまでの話は、一般会計と云ってな、税金などを財源として行政活動の基本的な経費を賄っておるのじゃ。幸田町には一般会計とは別に7つの特別会計と1つの企業会計が設けられておるのじゃ。これらの特別会計などへの運営資金として一般会計から支出されるお金のことを繰出金というのじゃ。

次に繰出金は…さくらさん..それはまかせてください！幸田町には特別会計や企業会計というのがあって、それを運営するために支出するお金ですよ。

県、他の団体に対する負担金や補助金なのじゃ。社会福祉協議会やシルバー人材センターの運営補助もここに分けられるぞ。

次に公債費は、借金の返済に充てられたものじゃ。町民会館など大規模事業でピーク時の平成9年には130億円あった借金も今は70億円まで減ってきておるぞ。

特別・企業会計

R・・では、19年度の幸田町の特別会計と企業会計でどのようにお金が使われたのか教えてください。
彦左さん…よっしゃ。一般会計は主に税金を財源として運営されておるのじゃが、特別会計は、ある特定の事業を行うために、特定の歳入・歳出を一般会計と区分して経理するための会計なのじゃ。
 ここからは19年度の特別会計と企業会計について、一つずつ説明していこうかの。

まずは、**土地取得特別会計**じゃ。
 この会計は、公用・公共用に使われる土地や公共の利益のために事前に土地を購入するための会計なのじゃ。

19年度は、先行取得が必要な案件はなかったの、公債費（借金）の返済が主なものじゃった。

国民健康保険特別会計はな、勤務先で健康保険などの適用を受けない町民のかたが病気やケガをした時に本人の負担以外の医療費を医療機関などに支払ったり、出産や死亡した時に経費の一部を加入者みなで支給したりする会計なのじゃ。

19年度の加入状況は、5,338世帯10,816人で町民の約3割のかたがこの保険に加入してお

るのじゃ。

老人保健特別会計はな、老後の健康を保つため、予防から医療や機能訓練など総合的な保健医療のために使われておるのじゃ。

19年度末の受給者数は、2,725人で、一人平均で年間68万円の医療費が使われたことになるのじゃ。

介護保険特別会計はな、高齢になって、介護が必要となった場合に受ける介護サービスの本人負担以外の経費を、加入者と税金で負担し介護施設などに支払っておるのじゃ。

19年度末では、548人が要介護、167人が要支援の認定を受けて各種サービスを受けたのじゃ。

幸田駅前土地区画整理事業特別会計はな、平成18年度の途中にできた新しい会計じゃ。幸田駅前地区の区画整理事業を円滑に施行するための会計じゃ。

19年度は、用地の取得や物件補償など事業が本格化し、大幅に決算額が増えたのじゃ。

農業集落排水事業特別会計はな、幸田町は全町下水道化を推進しており、農村集落の環境整備の一つとして進められておるのじゃ。町内13地区全て供用開始されており、それらの施設の維持管理事業を行っておるのじゃ。

下水道特別会計はな、農村集落以外の市街地の下水道整備等を運営しておる。

幸田町では、既存の市街化区域の整備が概ね完了し、周辺集落区域と新市街化区域の整備をしたのじゃ。

19年度末で農業集落排水と下水道等の汚水処理人口は、35,128人となり、普及率は97.5%となつたわけじゃ。

最後は、**水道事業会計**じゃ。
 この会計は企業会計と言つてな、幸田町の水道事業の運営がされておる会計なのじゃ。

幸田町の水道普及率は19年度末99.5%で、水源は県水から水を買って各家庭に配水しておるのじゃ。19年度の総配水量は約455万立方メートルで、1日に永野水道山タンク2.5杯分となり、前の年よりも6万立方メートル増加となつたわけじゃ。

どうじゃな、この厳しい状況の中、限られた財源を活かして、幸田町では実に様々な事業が進められておるのじゃ。分かってもらえたかのう。

さくらさん…よく分かりました。19年度も、いろいろな事業が進められて、いろいろなことに使われているんですね。これからもお金の使われかたに関心を持っていきたいと思います。

決算状況

会計名			歳入(a) (伸び率)	歳出(b) (伸び率)	差額(a) - (b)
一般会計			132億 730万円 (4.8%減)	123億8,213万円 (5.5%減)	8億2,517万円
特別会計	土地取得特別会計		4億8,822万円 (4.2%増)	4億6,749万円 (5.6%増)	2,073万円
	国民健康保険特別会計		27億3,055万円 (9.3%増)	26億7,732万円 (9.5%増)	5,323万円
	老人保健特別会計		19億 181万円 (2.1%減)	18億9,718万円 (2.0%減)	463万円
	介護保険特別会計		11億4,216万円 (9.7%増)	11億1,770万円 (10.5%増)	2,446万円
	駅前土地区画整理事業特別会計		2億6,731万円 (193.9%増)	2億6,217万円 (213.0%増)	514万円
	農業集落排水事業特別会計		3億5,041万円 (6.6%減)	3億4,257万円 (6.8%減)	784万円
	下水道事業特別会計		9億 740万円 (14.5%減)	8億9,738万円 (14.8%減)	1,002万円
企業会計 (税抜き)	水道事業	収益的収支	6億7,086万円 (3.0%増)	6億1,106万円 (4.8%増)	5,980万円
	会計	資本的収支	1億6,766万円 (20.3%減)	2億6,688万円 (9.1%増)	▲9,922万円
総合計			218億3,368万円 (1.7%減)	209億2,188万円 (1.7%減)	9億1,180万円

※歳入には翌年度繰越明許費（事業財源分）一般会計1,642万円、駅前特会469万円を含む

指標で見る財政情報

経常収支比率

経常的・義務的経費にあてる割合

65～75歳…適正

75歳以上…要注意

19年度…73.8歳

18年度…71.7歳

17年度…75.5歳



公債費比率

借金の一般財源に占める割合

10歳以下…望ましい

19年度…11.4歳

18年度…12.7歳

17年度…14.1歳



財政力指数

財政上の力を示す指数

指数が1以上の団体は

財政力の強い団体といえる

19年度…1.65

18年度…1.60

17年度…1.59



平成19年度に使われたお金を
町民一人当たり換算すると…

33万4,697円

(前年度 36万3,026円)

123億8,213万円 ÷ 36,995人
(一般会計) (H20.3.31)



町民一人当たりを目的別に見てみると…

1	民生費	7万5,229円(7万541円)
2	土木費	7万1,812円(6万4,164円)
3	教育費	5万1,576円(6万6,861円)
4	総務費	3万5,138円(3万5,654円)
5	公債費	2万9,870円(3万594円)
6	農林水産業費	2万3,989円(2万5,308円)
7	衛生費	2万3,912円(3万1,301円)
8	消防費	1万4,765円(1万4,675円)
9	商工費	3,708円(3,920円)
10	議会費	3,422円(4,245円)
11	労働費	903円(892円)
12	諸支出金	311円(1万4,862円)
13	災害復旧費	62円(9円)

()前年度

決算審査報告

幸田町監査委員 鴨下 登
大須賀 好夫

決算審査に付された各会計の歳入歳出決算書等は、いずれも関係法令等に準拠して作成されており、その計数は正確で、予算の執行は概ね適正であると認められた。

◎一般会計・特別会計

一般会計と各特別会計の歳入決算額から歳出決算額を差し引いた形式収支、この形式収支から翌年度へ繰り越す財源を差し引いた実質収支および単年度収支は黒字の決算となったが、税を始めとする未収金については、増加傾向にあり、引き続き解消に向けた地道な取り組みが必要である。

R..そうですね。町の財政状況も一人ひとりが関心を持っていかなければいけないですね。
彦左さん..そのとおりじゃ。住民にわかりやすくお知らせするため、19年度決算から財政健全化の

◎水道事業会計

水道施設の成績指標ともいわれる有収率は前年度より改善され、本年度の経営成績として純利益も確保できている。昨今の大規模地震災害を見るに、施設の耐震化、老朽化対策は、緊急の課題であり、耐震補強など安定供給に向けた取り組みが必要である。

原油価格の高騰等の影響を受け、最近の景況には陰りが見られ先行きに厳しさも懸念される。こうした社会情勢のなか、地方自治においては地方分権改革という大きな変革の波にあり、今後の行財政運営は更なる緊張感をもった運営を強いられることが予測される。本町においても的確な状況判断、メリハリのある施策のもと持続性のある行財政運営に心がけられ、住民サービスの向上に一層努められたい。

(平成19年度決算審査意見書から)

平成19年度決算に基づく 健全化判断比率の公表

作成しなければならなくなったんじゃない。

R..それでは、各指標について教えてください。

彦左さん..それじゃあ、財政健全化判断指標から一つずつ説明していこうかの。

まずは、**実質赤字比率**じゃ。これは、福祉、教育、まちづくりなどの普通会計の赤字額を町税等の財源と比較して財政運営の深刻度を示しておるのじゃ。幸田町は黒字じゃから数値は計上されなかつたんじゃ。

次に、**連結実質赤字比率**じゃ。これは、特別会計や第3セクターを含む全ての会計の赤字と黒字を足して、全体の資金不足を把握するため、町税等の財源と比較して財政運営の深刻度を示しておるのじゃ。幸田町には第3セクターや公社といった外部団体はないから、決算の報告をしている一般会計と7つの特別会計、それと水道事業会計の連結決算の指標じゃ。これも幸田町は黒字じゃから数値は計上されなかつたんじゃ。

次に、**実質公債費比率**じゃ。これは、借入金の返済額等の大きさを指標化して、資金繰りの危険度を示しておるのじゃ。幸田町は3カ年平均12.2%で基準値を下

回っておるの。

さくらさん..でも、あんまりいい数値じゃないですよね？

彦左さん..そうじゃな。しかし、単年度数値は平成17年度から順に12.8%、12.2%、11.6%と年々改善されており、危険なレベルではないな。

次に、**将来負担比率**じゃ。これは、借入金や将来支払っていく可能性のある負担の現時点での残高の程度を指標化して、将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示しているのじゃ。幸田町は、7.9%と基準の350%を大きく下回っており、全国的にも低い比率となっておるんじゃ。

さくらさん..それじゃあ、安心してですね。

彦左さん..あくまで指標だから安心とは言い切れないが、財政難による早急な公共料金の値上げ等が必要な状況にはなっていないな。

最後に、**資金不足比率**じゃが、これは農業集落排水事業、下水道事業、水道事業の3つの公営企業の資金不足を、それぞれの料金収入の規模と比較して指標化し、経営状況の深刻化を示したもののじゃ。

幸田町の公営企業は全て黒字じゃから数値は計上されなかつた



問合せ 財政課財政G

(内線332)

んじゃ。

さくらさん..全ての指標がいい数値で良かった。これからも、しっかりチェックしよう。

彦左さん..そうじゃ！それが大事じゃ。住民も議会もみんなでチェックすることが大事なんじゃぞ。

R..ここではほんの少ししかお伝えできませんが、詳しいことがお知りになりたいかたは、幸田町のホームページ「財政」をご覧くださいね。

1 財政健全化判断比率

下表のとおり、いずれの指標についても早期健全化基準を下回っている。

() は黒字比率

	健全化判断比率	早期健全化基準
実質赤字比率	— (▲7.7%)	13.21%
連結実質赤字比率	— (▲23.1%)	18.21%
実質公債費比率	12.2%	25.0%
将来負担比率	7.9%	350.0%

※早期健全化基準

財政健全化判断比率のいずれかが早期健全化基準以上の場合、財政状況はイエローカードである「早期健全化段階」となり、財政健全化計画を定めなければならない。

○財政健全化判断比率の近隣市町村状況

市町村名	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
幸田町	—	—	12.2%	7.9%
岡崎市	—	—	1.8%	2.8%
西尾市	—	—	7.4%	37.5%
蒲都市	—	—	6.6%	48.5%
吉良町	—	—	7.2%	53.3%
一色町	—	—	7.0%	73.4%
幡豆町	—	—	7.6%	61.2%
全国平均	23団体(赤字団体数)	71団体(赤字団体数)	12.3%	110.4%

2 公営企業の資金不足比率

下表のとおり、資金不足を生じた公営企業はありません。

() は黒字比率

	資金不足比率	経営健全化基準
農業集落排水事業特別会計	— (▲8.6%)	20.0%
下水道事業特別会計	— (▲6.0%)	20.0%
水道事業会計	— (▲237.1%)	20.0%

※経営健全化基準

各公営企業ごとの資金不足額の、事業の規模に対する比率であり、経営健全化基準(20%)以上となった場合には、経営健全化計画を定めなければならない。